

### 第30号(2023年9月配信) コンテンツ

下図: 2023年版香害啓発ポスターより

#### 近藤会長からのメッセージ

1. 医薬品情報・学会ニュース
2. ヘルスケア業界トピックス 化学物質過敏症
3. 医療安全確認クイズ

#### 重篤副作用疾患別対応マニュアル

「スティーヴンス・ジョンソン症候群」

「中毒性表皮壊死融解症」

4. 各委員会から 第一回医療安全 Web セミナー開催報告、他
5. 医療安全確認クイズの答えと解説

#### 近藤会長からのメッセージ

夏の豪雨や台風で被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

暦のうえでは秋となりましたが、今年は例年のない夏の酷暑に続き残暑も非常に厳しい年となっております。皆さまにはお元気にご活躍と拝察いたします。

毎年9月は「がん征圧月間」、日本人の死因第1位である「がん」による死亡者は年々増加しています。月間中は、がん予防に対する意識啓発を目的として、全国で様々な広報行事が開催され、適切な予防や早期発見、早期治療を国民に呼びかけます。日本女性薬剤師会では、10月1日に第一回ピンクリボン特別講演会「乳がん治療最前線を学び、かかりつけ薬剤師最前線に立とう！」を2023年度婦人科ファーマシューティカルケア 専門領域研修として企画しています。乳がんの早期発見は元気な女性を応援する日本女性薬剤師会の願いでもあります。久しぶりに開催する全国規模の集合研修ですので、皆様奮ってご参加いただき、ご自身のからだに関心を寄せるきっかけになれば幸いです。さらに12月17日には第2回医療安全Webセミナー「抗がん剤治療の薬薬連携」をオンライン研修で開催し学びの場を提供していきます。

日女薬カレントニュース第30号は、感染症情報として増加傾向にある新型コロナウイルス感染症への基本的対策と9月に始まるワクチンの情報、性感染症の最新情報を、更にヘルスケアトピックスとしてNHKでも取り上げられた化学物質過敏症の情報をお届けします。また7月23日開催の第一回医療安全Webセミナー「リフィル処方箋対応」についての開催報告を致します。

全国的に新型コロナウイルス感染症患者数の増加傾向をはじめとして、感染症の話題が多いこの時季、会員の皆様のますますのご健勝を祈念しております。



## 1. 医薬品情報・学会ニュース

### 1-1 厚生労働省ホームページより

★ [薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について\(令和5年8月30日適用\) | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

★ [緊急避妊に係る取組について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

・施設紹介: 対面診療が可能な医療機関一覧(令和5年7月31日時点)

・緊急避妊に関する研修を修了した医師の一覧は[こちら\[6.5MB\]](#)

・「オンライン診療の適切な実施に関する指針」に基づく薬局における対応については[こちらから](#)

★ [医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

厚生労働省は6月26日に「第25回 医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」を開き、緊急避妊薬のOTC化について議論した。前回から懸案の試験的運用について事務局は、「地域の一部薬局における試験的運用」の資料を提出。緊急避妊薬の試験的販売を薬局に求める要件を提案した。モデル的調査研究として令和5年度年夏頃～3月末に実施予定で、販売薬局の要件案には緊急避妊薬の調剤実績に加え以下の4項目があげられた。

(1) オンライン診療に基づく緊急避妊薬の調剤の研修を修了した薬剤師が販売、

(2) 夜間・土日祝日にも対応、

(3) プライバシーを確保できる個室などを保有、

(4) 近隣の産婦人科医、ワンストップ支援センターとの連携体制を構築している

⇒[資料1 地域の一部薬局における試験的運用について \(PDF: 511KB\)](#)

### 1-2 感染症情報

★ [新型コロナウイルス感染症について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

全国的に新型コロナ感染症患者数の増加傾向が報道される中、新学期がスタートしました。

基本的な感染対策を継続することが大切です。

★ [新型コロナウイルス\(COVID-19\)感染症・診療の手引き 10.0版 8月21日改訂](#)

第10.0版は5類への類型変更後の初めての改訂ですが、新型コロナウイルス感染症が健康上の脅威であることに変わりはありません。オミクロンに置き換わって以降の国内外の知見を中心に、よりコンパクトな内容に改訂されました。[001136720.pdf \(mhlw.go.jp\)](#)

★ [新型コロナワクチン 令和5年秋開始接種についてのお知らせ](#)

9月20日以降、希望するすべての方を対象にXBB対応ワクチンの接種が始まります。生後6か月以上のすべての方に対して、新型コロナのオミクロン株(XBB.1.5)に対応した1価ワクチンの接種を行います。初回接種にもXBB対応ワクチンを使用します。

(参考)<https://www.mhlw.go.jp/content/001133311.pdf>

## ★「知っておきたい 性感染症の正しい知識」

感染者が増加傾向にある梅毒、早期治療が重要なHIV感染症、エムポックスなど注視すべき性感染症の現状や予防法・治療法、相談先などを紹介しています。詳細はこちらから ↓

[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou\\_kouhou/kouhou\\_shuppan/magazine/202308\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202308_00001.html)

### 1-3 [公開シンポジウム「薬剤師に期待する地域医療への能動的関与」](https://www.scj.go.jp) (scj.go.jp)

9月16日13～16時 Web開催(参加費無料) 主催:日本学術会議、日本薬学会他

超高齢社会を迎えた日本において、質の高い医療・介護を提供するため、地域包括ケアシステムの構築が進められている。薬剤師・薬局には、処方箋を持参した患者を対象とするだけでなく、地域住民の健康を支える役割を担うなど、多職種や他の医療機関と連携した活躍が期待されている。本シンポジウムでは、医師・看護師・薬剤師の先駆的な取り組みを共有し、近未来の地域医療への能動的関与や多職種連携のあり方について議論を深めたい。

参加申込方法: 9月15日(金)までに下記のURLから参加登録すると前日までに[ミーティングID][パスワード]を送付 <https://appmanage.cloud/kumamoto-u/symposium/20230916>

事前登録すると9月20日～10月4日までオンデマンド視聴が可能です。

## 2. ヘルスケア業界トピックス

### 2-1 化学物質過敏症

本カレントニュース第24号、25号で北條祥子先生に寄稿をいただいた環境過敏症に関連する「化学物質過敏症」が、8月2日NHKで取り上げられました。

知っていますか?化学物質過敏症 - あさイチ - NHK 専門家として坂部 貢(さかべ・こう)教授(千葉大学予防医学センター特任教授、環境医学がご専門)が出演され、さらに8月9日NHKラジオのインタビューにも答えられました。

その香り 困っている人がいるかも～化学物質過敏症～ | 読むらじる。 | NHKラジオらじる★らじる  
何気なく使っている衣類の柔軟剤、汗のにおいや部屋のにおいを消す消臭剤など、最近では香りがついている製品が増えてきた。一方で、身近にあるほんのわずかなにおいでも、頭痛やめまい、吐き気などの体調不良を起こすケースが問題になっている。こうした状況を受けて、消費者庁や厚生労働省などの5つの省庁は「その香り 困っている人もいます」と題した啓発ポスターを作成した。消費者庁によると、柔軟剤のほか、消臭スプレーなど香りがするものを対象にしている、香りで困っている人への呼びかけを行っている。

2023年版香害啓発ポスターはこちらから <https://www.caa.go.jp/notice/entry/034017/>

2021年版に比べ、「困っている人がいるかも?」が、「困っている人もいます」に変更されるなど、いくぶん進展もあるが、相変わらず香りの好き嫌いや「快・不快」の問題の域を出ておらず、化学

物質による健康被害を防止するために(官庁の立場があるとはいえ)使用自粛を明確に求めるものではなく、「配慮」を促すにとどまっているという問題が残る。

番組では化学物質過敏症により不登校となるケースや、職場環境(タバコ、香水、柔軟剤等)により離職したケースが紹介された。坂部教授への主な Q&A を紹介します。


Q: 症状に気が付いたときに何科を受診すれば良いのでしょうか？


A: 化学物質過敏症を専門に診るクリニックはまだ少ないが、一番気になる症状に関連する診療科を受診し、化学物質過敏症と決めつけずに重要な病気が隠れていないかを診てもらうことが大事です。

Q: 治療方法はあるのでしょうか？

A: 症状がある人の対策としては、まず発生源対策で、原因物質から離れる、遠ざかるということが一番です。次に代謝とか、解毒新陳代謝を活発にすることが大事で自律神経を整えるような生活習慣、たとえば運動して汗をかくなどもとても必要になってきます。また、栄養的に必須のミネラルやビタミンが足りていないこともあるので、それを補って、体の調節力、治癒力を高めるということが重要と考えています。

NHK の番組では関連情報として、学校での対応について(以下 URL)、NPO 法人化学物質過敏症支援センター、石鹼を使ったやさしい洗濯方法(石鹼を使い、通常の 3 倍量の水でよくすすぎ洗いをする)などが紹介されました。まずは化学物質過敏症について知ること、決して否定しないで相手の立場で考えることが重要であるとしめくられ、反響が多く寄せられたため、NHK では引き続き化学物質過敏症について取り上げるようです。

[健康的な学習環境を維持管理するために ー学校における化学物質による健康障害に関する参考資料 ー\(その 1\) \(PDF:1313KB\)](#) 

[健康的な学習環境を維持管理するために ー学校における化学物質による健康障害に関する参考資料 ー\(その 2\) \(PDF:1498KB\)](#) 

日女薬カレントニュース第 24 号、25 号で寄稿いただいた北條祥子先生も NHK の取材を受けられたそうです。(JWPA 会員ページより日女薬カレントニュースバックナンバーをご覧ください) [JWPA【一般社団法人 日本女性薬剤師会】\(jyoyaku.org\)](#)

「あなたやお子様は環境過敏症ではないですか？」尚綱学院大学名誉教授、東北大学大学院歯学系研究科研究員、日本臨床環境医学学会環境過敏症分科会代表、室内環境学会環境過敏症分科会代表 北條祥子氏 お問い合わせはメールで受付ます ⇒ [miyajyoyaku2023@gmail.com](mailto:miyajyoyaku2023@gmail.com)

### 3. 医療安全確認クイズ (答えは 5. 医療安全確認クイズの答えと解説参照)

Q. 重篤副作用疾患別対応マニュアル「スティーヴンス・ジョンソン症候群」「中毒性表皮壊死融解症」に関する記載のうち誤りはどれか？



参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「SJS」[スティーヴンス・ジョンソン症候群](#)

重篤副作用疾患別対応マニュアル「TEN」[中毒性表皮壊死融解症\(中毒性表皮壊死症\)](#)

1. 発熱(38℃以上)、粘膜症状(結膜充血、口唇びらん、咽頭痛、陰部びらん、排尿排便時痛)、多発する紅斑(進行すると水疱・びらんを形成)を伴う皮疹の3つが主要徴候である。
2. 原因医薬品の服用後2週間以内に発症することが多いが、数日以内あるいは1ヶ月以上のこともある。なお、眼病変は、皮膚または他の部位の粘膜病変とほぼ同時に、あるいは皮膚病変より半日ないし1日程度先行して認められ、両眼性の急性結膜炎を生じる。
3. 推定原因医薬品は、抗菌薬、解熱消炎鎮痛薬、抗けいれん薬、痛風治療薬、サルファ剤、消化性潰瘍薬、催眠鎮静薬・抗不安薬、精神神経用薬、緑内障治療薬、筋弛緩薬、高血圧治療薬など広範囲にわたり、その他の医薬品によっても発生することが報告されている。
4. まず被疑薬の服用を中止する。皮疹部および口唇・外陰部粘膜の局所処置、嚴重な眼科的管理、補液・栄養管理、感染防止が重要である。薬物療法としてステロイド全身投与が基本である。
5. 中毒性表皮壊死融解症は、広範囲な紅斑と、全身の10%を超える表皮の壊死性障害による水疱、表皮剥離・びらんを認め高熱と粘膜疹を伴う。原因の大部分は医薬品である。スティーヴンス・ジョンソン症候群からの移行はまれである。

#### 4. 委員会・都府県女薬からのお知らせ

4-1 日女薬会員は、薬剤師継続学習通信教育講座を受講し、G16認定薬剤師を取得しましょう。

**2023年度 薬剤師継続学習通信教育講座**

**新年度 2023年5月～2024年3月 | 第一次募集中 2023年9月30日まで**

[薬剤師継続学習通信教育講座の募集要項\(JWPA【一般社団法人 日本女性薬剤師会】\)\(jyoyaku.org\)](#)

引き続き受講者受付中です。今からでも受講開始・キャッチアップできます。

従来の学習に新シリーズを追加、さらに内容が充実!!

**第4回テキスト『肺炎—市中肺炎と院内肺炎、医療・介護関連肺炎—』**

**8月31日(木)発送。 解答書の締切りにつきましては9月30日となります。**

#### 4-2 ★日本ファーマシストヘルス研究への参加者募集

群馬大学の疫学研究チームが本年、女性の生活習慣と健康に関する疫学調査「日本ファーマシストヘルス研究」を開始しました。1962年～1999年生まれの薬剤師資格をもつ女性を募集しています。 [20230219\\_JPHS.pdf \(hap-fw.org\)](#)

月経関連疾患, 不妊症, 若年に発症する貧血, 子宮内膜症, 子宮筋腫, 片頭痛など有症割合や女性ホルモン剤の利用, 婦人科領域のがん検診といった女性固有の保健医療習慣の実態を把握することで, さまざまな症状や疾病の発症予防につながる若年時の生活習慣因子を探索することを目的とした長期のコホート研究です。本調査は長期にわたって2年に一回の質問票調査に協力するもので, 高いフォローアップ率を確保するためには, 本調査の医学薬学的意義を十分理解できる集団であることが求められ, 薬剤師が対象とされたものです。

[資料請求サイト](#)から資料を入手のうえ, 参加をご検討ください。

#### 4-3 2023 年度婦人科ファーマシューティカルケア専門領域研修開催案内(10月1日開催)

第一回ピンクリボン特別講演会 案内チラシ⇒ [PowerPoint プレゼンテーション \(jyoyaku.org\)](#)



最新の乳がん治療と患者のアピアランスケアを学べる貴重な機会、是非ともご参加ください！

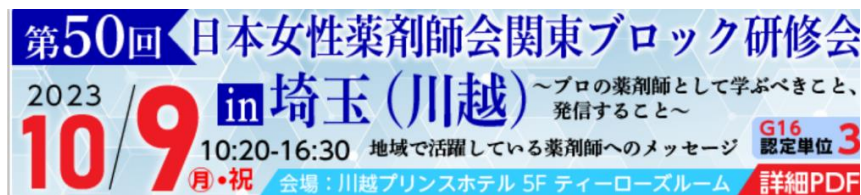
[【受講申込みフォームへ】](#)

<https://forms.gle/sWuz3zFSmPrKFYZW9>



#### 4-4 日本女性薬剤師会関東ブロック研修会 in 埼玉(川越) 10月9日 10:20-16:30

会場: 川越プリンスホテル5F ティーローズルーム



ハイブリッド開催 受講者募集中 Web 参加の申し込み(会員・会員外とも 6500 円)

詳細は [20231009\\_saitama\\_TOP.pdf \(jyoyaku.org\)](#)

#### 4-5 医療安全 Web セミナー開催報告(2023 年 7 月 23 日開催)

2023 年度 医療安全 WEB セミナー 第 1 回 「リフィル処方せん」 参加報告

医療安全推進委員 清水 勝子氏(埼玉県女性薬剤師会副会長)

講演① 「リフィル処方せんへの対応」—薬剤師の専門性を発揮する—

帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授 今井博久 先生

昨年の医療安全 WEB セミナー「ポリファーマシー」で、「情報提供書を活用した医療安全」と題してご講演された帝京大学大学院教授の今井博久先生に再度ご登壇をいただきました。

今井先生は日頃から、薬剤師の専門性の機能向上のサポートのためにご尽力され、ポリファーマシーをはじめ地域フォーミュラリやリフィル処方せんについても研究をされています。日本では従来から「長期処方分割調剤」が海外のリフィル処方せん制度に代わるものとして実施されてきましたが、2022年4月の診療報酬改定からくり返し使用できる「リフィル処方せん」が導入されました。発行枚数はまだ伸びていませんが、薬剤師がリフィル処方せんを応需した際には、患者の服用状況や心身状態を適切に評価し、継続して薬物治療が可能か等の判断をして、処方せんを発行した医師への情報提供や患者への受診勧奨を適切に実施することが求められています。今井先生はリフィル処方せんを受けるにあたって「医師と薬剤師の適切な連携」には薬剤師から医師への適切な情報提供が必須と示されました。患者の副作用・服薬状況・患者の訴え・生活状況などの聴き取りから受診勧告の判断や各疾患別の「評価シート」を使用したフォローアップ報告書の作成に力を注ぐことが肝心なことであるとも指摘されました。

今井先生が行われた2022年の1年間のリフィル処方せんの実態調査やアメリカのリフィル制度の実地調査の結果、適切な連携をとるためのツールとして代表的な6疾患について、「評価シート」と「フォローアップ報告書」の開発がなされました。「評価シート」の意義は全国どの薬剤師でも標準的な評価を実施できる事で安全な薬物療法がなされることが期待でき、「フォローアップ報告書」は処方せんを発行した医師が必要としている患者情報を過不足なく整理して報告書として提供できる事です。また、ツールを使いこなすためには、私たち薬剤師は6疾患について一定レベルの知識と理解が必要であり、聴き取った患者情報を整理するスキル向上のためにもトレーニングが必要なことを強調されました。

今後リフィル処方せんが増えてくることが予想されます。リフィル処方せん応需に対するすべての業務はまさに薬剤師の「対人業務」そのものであり、期待される対人業務にしっかり対応できるように、ステップを踏みつつ実力をつけていくことが必要とされます。ツールを使うだけでなく、薬物治療のエキスパートとして地道にトレーニングを積んでいく必要性を理解することができました。

なお、研修会当日には研究成果が未公開のため、6疾患の評価シートや報告書等の詳細を提示不可能でしたが、7月25日には以下のURLで研究報告書が公開されました。ご講演で紹介された6疾患の評価シートや患者用リーフレットが掲載されています。

・[リフィル処方箋に係る薬局薬剤師による処方医へのより有効な情報提供等に関する手引きの作成についての調査研究 | 厚生労働科学研究成果データベース \(niph.go.jp\)](#)

・研修会のご案内: [セミナー | SPAD \(j-spada.com\)](#)

**医療安全推進委員会 俵木委員長より**

2023 年度第1回セミナーは、104 名の方が聴講されました。寄せられた質問にも書面でフィードバックしました。2人の講師のご講演については、非常にわかりやすかった、非常に役に立ったとする意見が多数寄せられました。受講者アンケートから一部抜粋してご紹介します。

・今井先生の講義、わかりやすかったです。なぜ進まなかったか等実態がわかりすっきりしました。

6 疾患学びなおします。

・今井先生のご講義で、国の方針や医師が薬剤師に何を求めているかを知れて良かった。これからは自己研鑽に努め、医師が必要としている情報を的確にフィードバック出来るような薬剤師を目指したいと思った。

2023 年度 第2回医療安全 Web セミナーは、「抗がん剤治療と薬薬連携」をテーマに、2023 年 12 月 17 日(日)13:00~16:30 にオンライン方式により開催します。10 月ごろから受講者募集を開始しますので、奮ってご受講ください。

## 5. 医療安全確認クイズの答えと解説

誤りは5。正しくは、5. 中毒性表皮壊死融解症は、途中略 原因の大部分は医薬品であり、**スティーヴンス・ジョンソン症候群からの移行がほとんどである。**

中毒性表皮壊死融解症は、全身が広範囲にわたり赤くなり、全身の 10%以上にやけどのような水ぶくれ、皮膚のはがれ、ただれなどが認められ、高熱(38℃以上)、皮膚や口にできるぶつぶつ、目が赤くなるなどの症状を伴う重症の皮膚障害です。その多くは医薬品が原因と考えられていますが、一部のウイルスやマイコプラズマ感染にともない発症することも知られています。発症メカニズムについては、医薬品などにより生じた免疫・アレルギー一反応によるものと考えられていますが、さまざまな説が唱えられており、いまだ統一された見解は得られていません。なお、スティーヴンス・ジョンソン症候群と中毒性表皮壊死融解症は一連の病態と考えられ、中毒性表皮壊死融解症の症例の多くが スティーヴンス・ジョンソン症候群の進展型と考えられています。原因と考えられる医薬品の服用後 2 週間以内に発症することが多く、数日以内あるいは 1 ヶ月以上経ってから起こることもあります。なお、服用した医薬品の種類、服用からどのくらいたっているのかなどを確認し、症状の持続や急激な悪化を認めた場合には早急に入院設備のある皮膚科の専門機関に紹介してください。医薬品を服用し、皮疹や呼吸器症状・肝機能障害などを認めた既往のある患者には注意して医薬品を使用すること、肝・腎機能障害のある患者では、当該副作用を生じた場合、症状が遷延化・重症化しやすいので注意が必要です。また、一般用医薬品の総合感冒剤での報告も少なくないので、要注意です。

参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「SJS」[スティーヴンス・ジョンソン症候群](#)

重篤副作用疾患別対応マニュアル「TEN」[中毒性表皮壊死融解症\(中毒性表皮壊死症\)](#)



(ライエル症候群、ライエル症候群型薬疹)

**6今後のイベント** 研修会・講演会日程一覧(日付順)ページ

一般社団法人 日本女性薬剤師会

TEL: 03-5244-4857

FAX: 03-5244-4077

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2 丁目 2-17 喜助お茶の水ビル3F

E-mail: [jwpa@khh.biglobe.ne.jp](mailto:jwpa@khh.biglobe.ne.jp)

Web サイト <https://www.jyoyaku.org/>